中国江蘇省南通市の交通を取り巻く状況

林　文明

1．は　じ　め　に

筆者は，2018年５月から６月と2019年５月の２回合わせて約３か月間，本学の協定校である中国南通職業大学で授業を実施した。その報告は林・藤田2019[1)] に掲載しているが，本稿では，南通職業大学のある南通市の状況について，当大学や自動車事情を中心に紹介したい。

2．南通市の概況

南通市は，1952年11月15日 江蘇省の成立により正式に江蘇省南通市となった都市である。中国上海の西北約100キロ（直線距離）に位置し，高速道路を経由すると約120キロ，２時間弱で行くことができる。面積は約8,000平方キロメートル，人口は約770万人で，南通人民政府ホームページによると，2018年の人口は762.52万人である。

地理的には長江と黄海に面し，経済的には中国最大の経済圏「長江デルタ経済圏」内にある。2015年の GDP は6148.4億元に達し，中国全国で22番目，江蘇省内で４番目である。近年 GDP は約10％の成長を続けており，経済的発展はめざましい。外資企業は約700社，日系企業は約150社が進出している。さらに鉄道網の整備や橋の建設による近隣都市との道路の整備が進み，上海へのアクセス利便性が一層向上したことにより，上海の副都心としてますますの発展が期待されている。また経済的つながりだけでなく，愛知県豊橋市と大阪府和泉市と国際友好都市提携を結び日本との関係も良好である。

また，中国教育界では俗に「中国の大学入試の結果は江蘇省を，江蘇省の大学入試の結果は南通市を見よ」との言葉もあり，中国で非常に教育水準の高い地域とされている。全国の大学入試で南通市の属する江蘇省は全国１位，その中で南通市は10年連続で江蘇省１位である。

南通人民政府ホームページによると，幼稚園508ヶ所，特殊教育学校７校，小学校324校，中学校163校，普通高校43校，職業高校28校，そして大学８校がある。

８大学は次のとおりである。南通大学，南通理工学院，南通紡績職業技術学院，南通航運職業技術学院，南通広播電視大学，南通師範学校，南通農業職業技術学院，そして本学が協定している南通職業大学である。

3．南通職業大学と自動車交通学部の概況

南通職業大学は，1973年創立の全国でも長い歴史を持つ職業専門性の高い３年制の大学である。本学が協定を締結している外国語学院*1（国際合作教育学院）を初めとして，自動車交通学院，機械学院，電子情報学院，化学生物学院，建築学院，経済管理学院，芸術デザイン学院，マルクス主義学院，継続教育学院，技師学院，海門学院，公共教学部の計13学部を有している。そしてその中に合わせて58学科を有しており，自動車交通学院の中には，自動車検査整備学科，自動車サービス及び営業学科，自動車電子技術学科，船舶技術学科がある。学生数は約18,000名の総合大学である（写真１，２，３，４）。

写真１　大学キャンパス

写真２　大学キャンパス

写真３　大学内駐車状況

写真４　大学内駐車状況

＊１　中国の大学の「学院」という名称は，日本の大学では比較的独立した「学部」に相当する。また各学院の名称は，日本語でわかりやすいように意訳してある。

授業料は年間7,000～8,000元で，日本円で約12万円～14万円である。またほとんどの学生が寮で生活しているが，寮は４人から６人部屋で，寮費は年間1,250元，日本円で約22,000円である。

自動車整備士資格は，初級，中級，高級とあり，１年に１回試験が行われている。受験費用は，中級180元（日本円で約3,000円），高級は280元（日本円で約5000円）である。しかし，働く際に資格のメリットはほとんど無く，会社での資格手当等も無い。南通職業大学の学生は，まず中級を取得し，在学中に高級を取得するべく学んでいる。中古車査定士は，半日単位で４回の講習がある。費用は2,000元（日本円で約34,000円）で，自動車整備士の約10倍と高い。学生は，任意で受験するが，受験者は少ない。

３年時には，インターンシップ制度により，約７か月間会社で実習をする。そしてこのインターン証明が大学の卒業要件となっている。インターンシップの時は，会社から給料が支払われている。

４．大学内の交通

中国はシェア自転車が急速に拡がり全土で普及している。（写真５，６）

写真５　シェア自転車（市街地）

写真６　シェア自転車（歩道）

そして電動バイクのシェア化は，大学内でも進められている。（写真７，８）

大学内では，2019年３月頃に電動バイクのシェアが始まり，数か所に指定場所が設置された。

電動バイクの運転に免許は不要だが，バイクの登録許可が必要である。シェア電動バイクは使用後，大学内の指定場所に返却する。支払いは，スマホのアリペイで決済され，１時間４元（日本円で約70円），１日の上限は28元（日本円で約500円）である。バイクの管理，補修やバッテリ交換などは，管理会社が行っている。ちなみに学生が個人で所有している電動バイク（写真９，10）の価格はおおよそ3,000元前後（日本円で約50,000円）である。シェアバイクは駐車場も保険もガソリン代も不要のため，非常に安価で便利であることがわかる。

写真７　大学内シェア電動バイク

写真８　大学内シェア電動バイク

写真９　大学内駐輪場

写真10　学生電動バイク

電動バイクの性能は，以下のとおりである。

バッテリ：36V（３個）最高速度30km/h　航続距離15km（標準）
48V（４個）最高速度45km/h　航続距離30km（オプション）
60V（５個）最高速度60km/h　航続距離45km（オプション）
72V（６個）最高速度75km/h　航続距離60km（オプション）

バッテリ価格は鉛バッテリ１個が150～200元（日本円で約2,500円～3,500円），リチウムバッテリー１セット（３個）3,000元（日本円で約50,000円）である。バッテリは３個が標準だが，オプションで増やすことができる。しかしバッテリが多いとスピードが出過ぎて危険なため，今後は３個に限定する検討がなされている。

またシェア自転車もあり，種類は次の二つ，アシスト自転車30分２元（日本円で約35円）とアシスト無し自転車30分１元（日本円で約17円）のレンタル料である。電動バイク同様，スマホで決済するシステムになっている。

さらに，今年から，大学の近くにシェア４輪自動車も登場した。大きさはメルセデスベンツのスマートぐらいで，この運転には免許が必要であり，レンタル料は１時間30元（日本円で約500円）である。やはりスマホで決済する。

大学は非常に広大であるため，シェア交通手段の整備，またスマホ決済という手軽さにより，学生や教員の移動，学内生活は非常に快適になっている。

５．南通市の交通や自動車について

南通市には1993年に中規模空港である「南通興東国際空港」が完成し，2016年に国際空港となった。2017年からは，上海国際空港の補助空港として，ターミナルの増築を開始した。それに伴い空港への直通道路の建設も同時進行している。また，上海浦東空港，上海虹橋空港に次ぐ上海第三の空港が海門市（南通市東側に隣接）に設置されるという話も出ているようである。また海路としては中国沿海港ベスト10にも数えられる南通港がある。

鉄道では，在来線の「南通駅」があり，江蘇省省都の南京まで約２時間30分で到着する。現在，鉄道での上海への移動手段はないため，2014年より「沪通鉄路（沪は上海，通は南通を表す）」の建設を開始し，2020年には上海 - 南通間が35分ほどで結ばれる予定である。さらに，高速鉄道（新幹線に相当する）「南通西駅」や他の鉄道路線も建設予定であり，これら計画中の鉄道が完成すると上海まで鉄道で行くことが可能となり，さらに南通から北京まで鉄道で４時間30分で行く事も可能となる。また現在南通市に地下鉄は無く，2017年12月から，2022年完成の予定で地下鉄１号線の建設を開始している。近隣都市と河で隔てられていた南通市であるが，2008年，蘇通長江公路大橋が建設され，長江対岸と連絡した。また2011年には南通と上海を連絡する崇啓大橋が建設された。現在建設中の沪通鉄道大橋や計画中の崇海トンネル大橋の建設と，幹線道路の建設により，インフラが整備され，経済的にも文化的にもますますの発展が期待されている。

６．南通市の自動車事情

中国の自動車販売台数は世界一位で，ここ数年3000万台近くに増え２位以下を大きく引き離している。新車販売に限って見ると，2018，2019年は減少しているが，その分中古車販売台数が増加し，相殺されている。そして2015年以降は自動車生産台数も世界一となり，まさに自動車大国となった。そして2025年には EV や PHV 車などの新エネルギー車の販売を新車販売の25％までにする目標で，今後は販売数だけでなく環境面でも自動車強国を目指している。そのような中，中国では沿海部を中心に８都市で，ナンバープレート制限が行われており，抽選で当選した者だけが取得できるシステムになっている。当選率は１％前後と厳しい。そのような問題もあり，GDP は伸びているものの自動車所有率は依然として低い。しかし，自動車所有は国民のステータスであり，運転免許取得者も激増しており，今後ますます増えていくと思われる。

2018年の南通市内の自動車保有台数は195.7万台で，前年に比べ8.3万台増加している。そのう

ち貨物車は9.6万台で１万台の増加，乗用車は156.9万台で4.3万台増加，バイクは27.5万台で7.1万台減となっている。ますます自動車社会へと進んでいる。

筆者が町を歩いていても，交通状況は日本と変わらず，道もきれいである。（写真11，12）

幹線道路は２～４車線の広い道路が多く走っており，車も整然と走っている。ひどい渋滞も見かけなかった。また昼夜とも国の幹線道路の騒音基準を満たしており，騒音も感じず静かであった。日本と違う点は，道路建設，マンション建設，地下鉄建設がいたるところで行われていることである。（写真13）

写真11　市街地道路

写真12　市街地交差点

写真13　地下鉄の建設

写真14　アーケード街を走るバイク

工事現場で騒音と埃が多いことは仕方ないが，大気汚染の深刻さが取りざたされる中国で，南通市の空気はきれいに感じた。

ただし，電動バイクの運転マナーには問題を感じた。ヘルメットを被らずに歩道を走るバイクや大きな荷物のはみだし，３人乗りのバイクなどをたびたび目にした（写真14）。

筆者が感じたもう一つの問題は，保有台数に対しての駐車場，駐輪場の少なさである。自動車

保有率の増加に伴い，駐車場の不足は避けられない問題となっている。大型商業施設には駐車場が完備されている（写真15，16）が，中小規模のレストランなどには駐車場，駐輪場がなく，歩道に駐車している場合が多い。合法か違法かわからないが，歩道上に場所を区切って駐車場，駐輪場にしている場所もある（写真17，18)。このような場所は歩行者には非常に歩きづらく危険な場所になっている。

写真15　イオンモール地下駐車場

写真16　イオンモール駐輪場

写真17　飲食店街駐車状況

写真18　市街地駐輪状況

南通市にも多くのカーディーラーが並んでいる通りがあり，その中のカーディーラーをいくつか訪問した（写真19～31）が，筆者が一人で突然訪問したにも関わらず，ショールームだけでなく工場内もこころよく案内してくれて驚いたほどである。筆者は中国語を殆ど話せないため，翻訳機を用いての会話であったが，スタッフは丁寧にいろいろ説明してくれた。筆者が見た限りでは，どのカーディーラーもサービス工場及び板金塗装工場，モータープールを併設しており，その規模は大きかった。スタッフの対応も非常に良く日本との差をあまり感じなかった。訪問した中では特にアウディの規模が大きく，大きなモータープールを併設していた（写真32)。また，見やすい場所にリペアパーツ料金表も掲示されていた（写真33)。

写真19　ホンダ外観

写真20　ホンダ外観

写真21　マツダショールーム

写真22　マツダフレーム修正機

写真23　マツダ塗装ブース

写真24　マツダ板金工場

写真25　BMW 外観

写真26　BMW ショールーム

写真27　ワーゲン外観

写真28　ベンツ外観

写真29　アウディショールーム

写真30　アウディサービス工場

写真31　アウディサービス工場

写真32　アウディモータープール

写真33　アウディリペアパーツ価格表

写真34　インターンシップ先の学生

写真35　スバルショールーム

写真36　スバルサービス工場

写真37　スバル板金工場

今回の滞在中，昨年授業で教えた学生から，南通市内にあるスバルでインターンシップをしているので，是非会いに来てほしいとスマートフォンに連絡をもらい，訪問することにした（写真34～37）。学生も日本語を殆ど話すことはできないので，翻訳機を介しての会話だった。学生は営業の仕事の研修をしていた。インターンシップ期間は，会社が借りている近くの宿舎から通っており，他の学生数名もその建物に共同で住み，整備の研修をしている学生もいた。また，別のカーディーラーにインターンシップに行っている学生も，同じ建物内に住んでいるということだった。

7．運転免許や車検制度

1）運転免許について

最近日本では，高齢者の運転による交通事故の多発が問題になっているが，現在の日本の法律では年齢に上限はなく，70歳以上は講習の受講，75歳以上は予備検査と講習が義務付けられているだけである。しかし中国の法律では，運転免許の取得は60歳まで可能で，運転は70歳までという年齢制限がある。60歳以後は毎年の身体検査があり，70歳になると全員が免許を返上する。よって中国の留学生たちは日本のこのニュースを不思議に思っているようだ。ただし，中国のような年齢制限は，イギリスにもあるが，世界的には少ない。

運転免許の取得には１か月半～２か月かかり，費用は地域によってことなるが，1,000～3,900元（日本円で14,000円から65,000円）かかる。試験は次のように４段階ある。

１段階：学科試験（主に交通ルール）100問中90問以上正解で合格

２段階：実技試験（コース内で５段階）

３段階：実技試験（路上試験）

４段階：学科試験（標識，安全について）50問中45問以上正解で合格

免許を取得した日本人教師の話によると，日本の免許を有している日本人の場合は，その免許証の内容を行政書士に依頼して証明書を作成してもらい，１段階の学科試験（PC で受験）に合格するのみで約２日で取得することが可能だそうだ。

２）車検制度について

中国にも車検制度があるが，新車から６年間は書類の手続きのみで，毎年１回車検証の更新をする。そして６年を過ぎると，毎年１回車体の検査も必要になる。車検の費用は約400～500元（日本円で6,500円～9,000円）である。実はこの車検制度は2014年以前，６年以内でも２年に１回車検を受ける必要があった。しかし，自動車保有率が上がるとともに，車検を実施する場所もなく車検が行えなくなったため制度を緩和したという経緯があるようである。

８．お　わ　り　に

中国は，自動車販売台数，生産台数，保有率の増加，新エネルギー車，シェア自動車，自転車の普及など，どんどん変化している。しかし駐車場不足や車検制度，マナーなどの問題がより深刻になっている。筆者は中国滞在でそのような状況を肌で感じることができ，貴重な体験であった。日本は自動車先進国であるが，世界も中国も変貌していることを，本学の学生にも適宜紹介していきたい。

ただし本稿は，学生や関係教員からの聞き取り，会社訪問，インターネット検索などを参考に執筆した。できる限り検証したが，情報の新しさや正確性に不十分点があるかもしれないことをお詫びしたい。中国や南通市の自動車事情，交通環境を知る一助となれば幸いである。

参　考　文　献

１）林　文明，藤田英樹，南通職業大学合作プログラムの報告，中日本自動車短期大学論叢　第49号（2019年３月）

参　考　資　料

南通人民政府（市役所）ホームページ（閲覧日2019年11月）　http://www.nantong.gov.cn
南通職業大学官方ホームページ（閲覧日2019年11月）　http://webmanager１.ntvu.edu.cn
日本経済新聞報告（閲覧日2019年11月）
　https://www.nikkei.com/article/DGXLRSP484393_U８A700C1000000/
愛知県上海産業情報センター報告令和元年６月10日林秀幸「江蘇省南通市における愛知県企業訪問」
　（閲覧日2019年11月）
　https://www.pref.aichi.jp/ricchitsusho/gaikoku/201905Shanghai_report.pdf
自動車産業ポータル MARKLINES（閲覧日2019年11月）
　https://www.marklines.com/ja/statistics/flash_sales/salesfig_china_2019